

麻布未来写真館

区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会

令和元年度（2019年度）活動報告

港区麻布地区総合支所

区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会

令和元年度（2019年度）活動報告

はじめに

本活動報告は、麻布地区総合支所の地域事業「麻布未来写真館」において、区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会が、令和元年度に取り組んだ活動の記録です。

「ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。」

写真には写された記録だけではなく、多くの人々にとっての体験の「記憶」が含められた、かけがえのない価値が備わっています。

本活動報告に掲載された写真は、新しいものも古いものも全て、ファインダーをとおして「麻布」をめぐる様々な人々の記憶を未来につなぐ貴重な記録です。

麻布の未来に向け、麻布地区総合支所は、多くの方々に記録と記憶の価値を伝え、区民の皆様の地域への共感や愛着をより一層高めてもらえるよう取り組んでまいります。

活動を進めるにあたり、様々なかたちでご尽力をいただきました区民の皆さんや関係者の方々に、心から御礼を申し上げます。

令和2年3月 港区麻布地区総合支所協働推進課

《 目 次 》

はじめに

I 分科会活動の概要	01
「麻布未来写真館」とは	01
パネル展の開催等	02
II 分科会メンバー作成パネルの紹介	03
パネルの作成	03
III これまでの活動を振り返って	11
メンバーのことば	11
IV 参考資料	15
分科会活動記録（令和元年度）	15
まち歩き（撮影）ルート図	16

区民参画組織「麻布を語る会」とは

麻布地区総合支所では、平成18年に新たな総合支所制度を導入して以来、地域に住み、働き、学び、活動する多くの人々が区政に参加し、地区の課題の解決策や将来について、ともに議論し、協働によって目標を達成していく「参画」と「協働」の取組に力を入れてきました。

「麻布を語る会」とは、区民の参画と協働により、麻布地区の将来像「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」の実現に向け、区民主体の検討や取組を進めるために設置された麻布地区の区民参画組織です。

メンバーは、麻布地区内に居住、勤務、在学し、または麻布地区のために活動したい公募区民等によって構成され、令和2年3月現在、「麻布未来写真館」・「麻布地区政策」・「地域情報の発信」の3つのテーマに分かれて分科会を設置し、それぞれ活発な活動を行っています。

I 分科会活動の概要

「麻布未来写真館」とは

「麻布未来写真館」事業実施の背景

麻布地区は、区内にある大使館の半数以上が集中し、外資系企業も多く立地するなど、国際的な「まち」です。また、外国人が多く利用する六本木の繁華街は、麻布の「まち」の国際的な魅力を高めることに貢献しています。

麻布には由緒ある寺院や、毛利庭園のように大名屋敷の面影を今に残す庭園や、小説や落語に登場する坂や町名も多く残るなど歴史と文化の「まち」でもあります。一方、アークヒルズ、泉ガーデンや六本木ヒルズ等に代表されるように、大規模なまちづくりによって「まち」が大きく変化しています。

こうした大規模なまちづくりにより「まち」が変化していくなかで、貴重な歴史的・文化的資産を次世代へ伝えていくとともに、麻布に暮らす多くの人々に麻布の歴史や文化をもっと知ってもらい、麻布の「まち」をより身近に感じ、愛着を感じてもらうための取組が重要です。

事業の趣旨

麻布地区総合支所では、平成21年度から区民や企業、大学等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を実施しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存していくことを通じて、麻布地区に暮らす人々にとって身近な歴史・文化資源を保全・継承するとともに、より一層の活用を目的としています。同時に、「まち」の歴史や文化をより多くの皆様に知っていただき、麻布地区への愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

区民との協働事業

令和元年度は、広報紙等の募集を通じて集まった「区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会」のメンバーとともに、収集した資料等を活用したパネル作成に向けたワーキング、まち歩きによる「まち」の変化の撮影やこれまでに作成したパネル等の発信、事業の周知に向けた検討等を実施しました。分科会メンバーが作成したパネルは、大学や企業等の協力により、常設展示を含め12か所で展示しました。

区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会 メンバー

天羽 大器	荒澤 経子	入江 誠 (副座長)	岡崎 純子	加藤 生磨
小山 浩 (副座長)	近藤 敏康 (座長)	櫻井 綾	鈴木 順二 (副座長)	田岡 恵美
椿 由美子	増子 照孔	水野 禮子	横島 久子	吉川 一郎
街いく 探検隊				

50音順 (令和2年3月1日現在)

パネル展の開催等

パネル展の開催

「麻布未来写真館」事業の一環として、これまでも開催してきた「パネル展」では、分科会活動の中で検討したテーマに基づき、メンバーが作成したパネルを展示しました。

事業開始から11年目を迎え、分科会メンバーの尽力とともに、地域の様々な方から、写真等のご提供など多大なご支援とご協力を賜り、令和元年度はパネル展を、常設展示を含め、12か所で開催しました。

パネル展スケジュール

- パネル展①：港区麻布地区総合支所 1階 ロビー
令和元年6月17日（月）～7月12日（金）
- パネル展②：飯倉いきいきプラザ 2階
令和元年9月25日（水）～10月10日（木）
※令和元年10月2日（水）に開催された
地域サロン～ちよこつと立ち寄りカフェ～と
連携して展示を実施。
- パネル展③：麻布図書館 5階 視聴覚室
令和元年11月22日（金）～11月30日（土）
※麻布の魅力探訪事業～あざぶ達人ラボ～主催の
講演会、AZABU WORLD FESTAの開催と連携して
展示を実施。
- パネル展④：ありすいきいきプラザ 1階 展示・読書コーナー
令和元年12月2日（月）～12月15日（日）
- パネル展⑤：南麻布いきいきプラザ
令和2年1月15日（水）～1月22日（水）
※令和2年1月22日（水）に開催された
地域サロン～ちよこつと立ち寄りカフェ～と
連携して展示を実施。
- パネル展⑥：港区役所 1階 ロビー
令和2年1月22日（水）～1月28日（火）
- パネル展⑦：フジフィルム スクエア ミニギャラリー
令和2年1月31日（金）～2月13日（木）
- パネル展⑧：港区麻布地区総合支所 1階 ロビー
令和2年2月17日（月）～3月3日（火）



常設展示

都立中央図書館、有栖川宮記念公園管理事務所掲示スペース、東洋英和女学院本部・大学院棟1階 学院資料・村岡花子文庫展示コーナー脇、青山霊園管理所、麻布区民協働スペース、港区麻布地区総合支所2階通路

地域事業との連携による取組

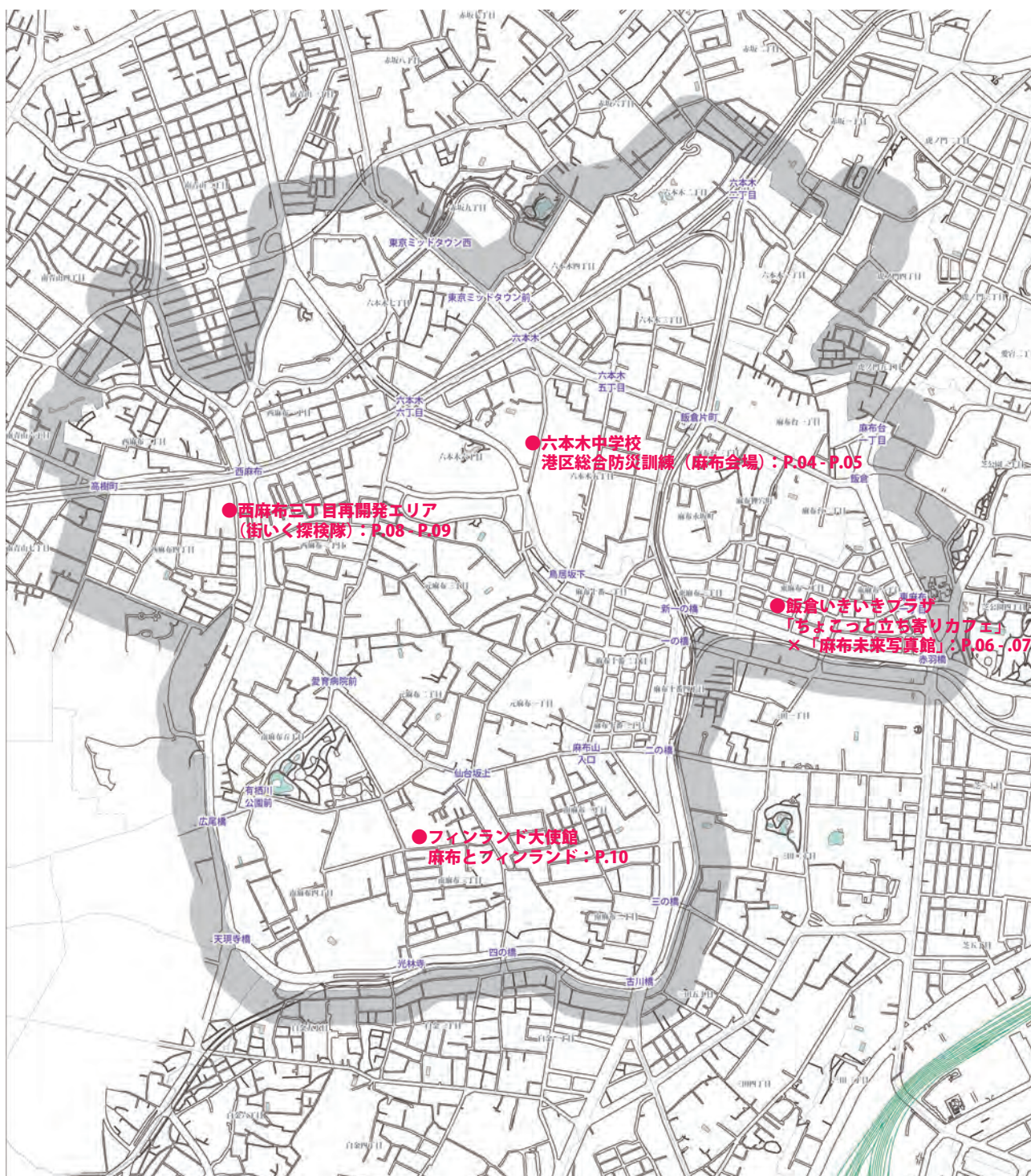
麻布地区総合支所では、地域の魅力創出、地域の課題解決のために区民等との協働と参画による地域事業を実施しています。その地域事業をより効果的な取組とするため、各地域事業間の協力・連携が求められています。令和元年度は、地域サロン～ちよこつと立ち寄りカフェ～、麻布の魅力探訪事業～あざぶ達人ラボ～、AZABU WORLD FESTAとの連携による取組を実施しました。

II 分科会メンバー作成パネルの紹介

パネルの作成

パネルの作成にあたっては、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」での写真やパネル作成のために個別撮影した写真、また区民等から提供していただいた写真や資料を活用しました。

なお、「分科会メンバー作成パネルの紹介」には、分科会活動で、関係機関などの協力のもと、写真・文献等の資料により、分科会メンバーが独自に調査し、作成したパネルの内容を掲載しています。



令和元年度 港区総合防災訓練(麻布会場)

令和元年(2019年)11月10日開催 ①

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



うまく的に当たるかな？
水消火器で初期消火を体験



煙がたちこめる屋内での避難を疑似体験

令和元年度港区総合防災訓練が、令和元年(2019年)9月から11月にかけて、区内7つの会場で順次行われた。麻布地区では11月10日(日)午前中に六本木中学校で、関係機関と多くの住民が参加してさまざまな体験型の訓練や展示が繰り広げられた。



力を合わせてバケツの水を運ぶリレー



協力しあいテキパキとした素早い動き



消火ポンプで吸い上げたプールの水をホースで勢よく放水

「ちょこっと立ち寄りカフェ」×「麻布未来写真館」

令和元年(2019年)10月2日開催 - ①

「ちょこっと立ち寄りカフェ」は、麻布地区の4か所の「いきいきプラザ」(ありすいきいきプラザ、麻布いきいきプラザ、飯倉いきいきプラザ、南麻布いきいきプラザ)で定期的で開催されている地域サロン。お茶やお菓子が並んだテーブルを囲んでレクリエーションを楽しんだり、なにかを学んだり、地域にお住まいのご年配の方々の笑顔があふれる素敵な集いの場になっています。

そんな「ちょこっと立ち寄りカフェ」に「麻布未来写真館」というテーマの日を設けていただき、2018年9月13日(ありすいきいきプラザ)、2019年10月2日(飯倉いきいきプラザ)、2020年1月22日(南麻布いきいきプラザ)の3回、参加者のみなさんと麻布未来写真館のメンバーが交流しました。

本パネルでは、飯倉いきいきプラザで開かれた2回目の「麻布未来写真館」の様子をご紹介します。

なごやかな雰囲気の中、麻布の今と昔の写真を見比べながらあれこれ語り合い、また、ひと昔前の麻布について、貴重なお話をたくさんうかがうことができました。



「大通りからちょっと入ったあたりに豆腐屋さんがあったね」「銭湯は4軒あったのよ」など、白地図を囲んで、かつて東麻布界隈にあったお店の場所を探してはマーキング。八百屋、魚屋、肉屋、パン屋、天ぷら屋、佃煮屋、呉服屋、染物屋、下駄屋、経師屋、畳屋……さまざまな商店が軒を連ねていたという当時の街にタイムスリップしたかのような、ワクワクした気持ちに。



今回のテーマ「麻布未来写真館」に興味を抱き、長年大切に保管してこられた昔の地図や路線図を持参してくださった方もいらっしゃり(右の2点の写真参照)、昔話に大いに花が咲きました。

狸穴公園(麻布狸穴町63番地)の鳥居の向こうにかつて防空壕があった、というお話が心に残り、後日、同公園に足を運んでみました。現在、鳥居の奥はコンクリートで整備された崖になっていて、それらしい痕跡を見出すことはできませんでしたが、「ちょこっと立ち寄りカフェ」での出会いがあってこそその貴重なお話にとっても感謝しています。



メモ書きの付箋で埋め尽くされていく白地図。戦後まもない頃は、現在の飯倉交差点と赤羽橋交差点を結ぶ桜田通り沿いに、車の修理をする店や、スーツを仕立てるテーラーがあった、というお話も新鮮でした。



参加者の方が持ってきてくださった「大東京区分圖三十五区之内 麻布区詳細圖」。東京大空襲前の麻布区の現況を記録した貴重な資料。市兵衛町、我善坊町、谷町、霞町など、旧町名はいずれも興味深く、麻布の街の奥行きを感じさせるものばかり。



こちらの「電車案内図」(昭和37年10月現在/東京都交通局)も、参加者の方がご持参くださったもの。都電の全系統の路線は眺めているだけで楽しい気持ちにさせてくれます。

左下の運賃や定期券の料金が載っている表には「無軌条(トロリーバス)」の文字も。道路の上に張りめぐらされた架線から、バチバチと火花を散らしながら走っていくトロリーバス、そんな、なつかしい光景が思い出されます。

「ちょこっと立ち寄りカフェ」×「麻布未来写真館」

令和元年(2019年)10月2日開催 - ②



こちらのテーブルでは、昔から麻布にお住まいの方、比較的新しい方、どちらの方もご存じないような情報をご提供、そこからお話を進めさせていただきました。これまでに作成したパネルや麻布未来写真館の活動報告書、地図などをご覧になるなか、さまざまな思い出が時空を超えてよみがえり、昔話に大いに花が咲きました。カフェの中では一番楽しかった、という嬉しいお言葉をいただき、大変励まされました。



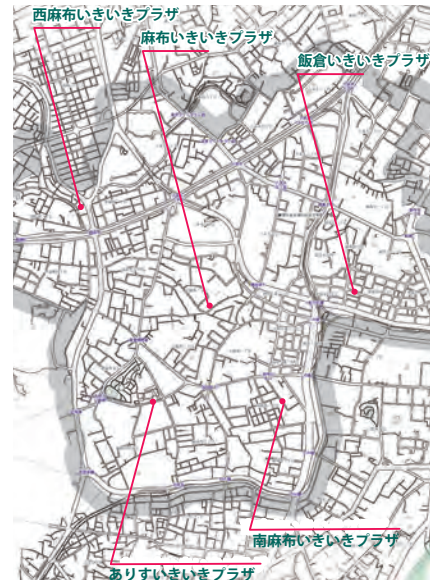
大盛況の「ちょこっと立ち寄りカフェ」。古き良き昭和の時代の思い出をあれこれ語っていただいたり、おすすめのお店の話題が飛び出したりと、リラックスした雰囲気なか、いくつもの素敵なストーリーと出会うことができました。



1枚の白地図を囲んで、お茶をしながら語り合った豊かな時間。人と人のつながりっていいな、あったかいな。そんなことを実感した、あつという間の2時間でした。



カフェの途中、ミュージアム・ツアー風に、参加者のみなさんと飯倉いきいきプラザで開催されていた麻布未来写真館のパネル展を見てまわりました。昔と今の街並みを対比したパネルなど、みなさん熱心にご覧になっていました。ふたたびテーブルに戻ると、パネルで印象に残ったことをきっかけに、さらに豊かなお話をお聞きすることができました。



麻布地区にある5つの「いきいきプラザ」。このうち、飯倉いきいきプラザ、西麻布いきいきプラザ、ありすいきいきプラザ、南麻布いきいきプラザの4か所で「ちょこっと立ち寄りカフェ」を定期的に開催しています。お茶やお菓子が並んだテーブルを囲んでレクリエーションを楽しんだり、なにかを学んだり。地域にお住まいのご年配の方々の笑顔があふれる素敵な集いの場になっています。

西麻布三丁目再開発エリア（街いく探検隊）

令和元年(2019年)10月26日開催 ①



六本木通りとテレ朝通りの交差点の角にある北辰ビル。



街いく探検隊が将来の街の担い手達と一緒に西麻布三丁目の再開発予定地を探検しました。六本木通り沿いのこだわりのデザインが特徴のマンションや老舗てんぷら屋さんのほか、裏手には昔の暮らしが点在していました。「昔は豆腐屋さん買いに来たよ」なんて思い出話を地元育ちの方から伺うのもまち歩きの楽しみです。



日光・金谷ホテルが建てた金谷ホテルマンションは1971年築。ディテールにもこだわった外観は存在感があります。



街いく探検隊はまちの清掃をしながら探検しています。



再開発エリアから見た六本木ヒルズ。



金谷ホテルマンションの裏側。正面突き当りは以前はお豆腐屋さんでした。



原美術店のビルから金谷ホテルマンション側を望む。



左手の六本木安田ビルもデザインが凝っていました。



六本木ヒルズから見た西麻布三丁目北東地区

西麻布三丁目再開発エリア（街いく探検隊）

令和元年(2019年)10月26日開催 - ②

II
分科会メンバー作成パネルの紹介



テレ朝通り側から見た再開発エリア。通りの様子も様変わりするようです。



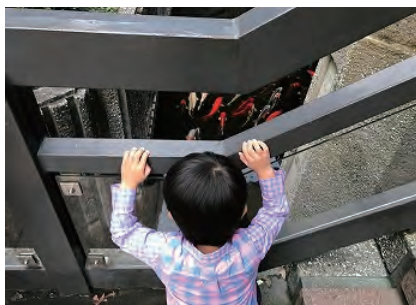
桜田神社 一の鳥居



桜田神社の手水舎は弘化四年(1847年)のもの。



日通山妙善寺



妙善寺の池



桜田神社の鳥居は再開発でどうなるのか気になるところです。奥の狛犬の台座には、櫻田久保町(現在の西新橋)の名が刻まれています。

妙善寺には滝と池があり大きな鯉がたくさんいました。再開発により、正面のマンションが広場になり、テレ朝通りからも見えるようになるようです。

今では珍しい木造平屋の建物や路地も懐かしい風景です。



街いく探検隊は、子どもが主役の清掃 & まち歩きを行うボランティア団体です。六本木にある妙経寺さんを起点に毎月活動しています。大人の方もお気軽にぜひご参加ください。

麻布とフィンランド 港区から始まった日本のフィンランド・タンゴ



令和元年（2019年）：日本・フィンランド外交関係樹立100周年記念「フィンランド・タンゴ名曲コンサート」



「フィンランド・タンゴ名曲コンサート」
ペッカ・オルパナ駐日フィンランド大使の祝辞



「フィンランド・タンゴ名曲コンサート」前日に開催された「音楽 de まちづくり」にて即興演奏の素材とする好みの風景写真を選ぶ参加者



平成30年（2018年）：フィンランドの新しい魅力と楽しさを発見し、体験するイベント「FIND FINLAND 2018」で、かわいいフィンランドのダンス会場の模型をつくる参加者（写真左）。ラバタンシ（タンゴをはじめとする多様なペアダンスを誰もが平等に、通年楽しめるフィンランド独自のダンス文化）を楽しむ参加者（写真右）。



「フィンランド・タンゴ名曲コンサート」の休憩時間に披露した歌声が大使夫人に気に入られ、同年12月のフィンランド大使館での独立記念パーティで歌うことになったUSさん（写真左）。USさんは、フィンランド・タンゴジュニアコンクールで優勝経験をもっています（写真下：2016年、コンクール優勝時の写真）。

令和元年（2019年）11月10日、日本・フィンランド外交関係樹立100周年を記念して「フィンランド・タンゴ名曲コンサート」が港区内で開催されました。フィンランド関係の方々をはじめ、区内外の多くの方々、他国の大使館の方々も来場され、国際色のとても豊かなコンサートになりました。コンサート冒頭、ペッカ・オルパナ駐日フィンランド大使からご挨拶をいただき、「私が妻と出会ったのも、実はフィンランド・タンゴ・ダンスパーティーでした」とのエピソードに、日フィン友好を願う観客から盛大な拍手が沸き上がりました。

コンサートでは、フィンランドから初来日したピアニストが、オリジナルのフィンランド・タンゴをベースに独自のアレンジを加えた数々の名曲を佳麗なメロディーで演奏し、即興で合わせたダンスも披露されました。まさにそれは「港区発祥の新しいダンス文化の創造」と言っても過言ではないかもしれません。

今回、初めてフィンランド・タンゴを耳にされた方も多く、来場者アンケートには「初めて聴く曲でありながら、どこか懐かしく深みのあるフィンランド・タンゴを知ることができて感謝します。ダンスも洗練されており、素晴らしいかったです。」「アルゼンチンタンゴとは趣が異なり、やわらかくて美しく、聴き心地がよかったです。」との感想も寄せられました。その音楽とダンスに新しい発見と親しみを覚えられた方がたくさんいたようです。

このコンサートを企画・主催したのはフィンランド・タンゴ&ダンス国際協会です。平成28年（2016年）10月に港区で生まれたこの協会は、フィンランドのタンゴを独自に研究・紹介し、地域に密着した文化として再構成する活動を進めています。本場フィンランドのタンゴ協会とも協力関係を築き、2017年にフィンランド・タンゴがフィンランド国内の無形文化遺産に認定登録された際には、国際的なアピール活動の一翼を担いました。これからも、フィンランド・タンゴのユネスコ無形文化遺産登録を目指して全面協力をされるとのこと。また、今後も大使館に協力を仰ぎながら、フィンランド・タンゴ&ダンスをモチーフにしたコンサートやフィンランド流オンライン・イベントなどなど、ユニークで先鋭的な盛りだくさんの企画を行い、フィンランド・タンゴ・ダンスを通じて、日本とフィンランドの国際文化交流をますます深めていこうとしています。

写真提供：フィンランド・タンゴ&ダンス国際協会 (<https://www.finlandtango.com/>)

Ⅲ これまでの活動を振り返って

メンバーのことば

副座長 入江 誠

今年度、もっとも多く足を運んだのは古川でした。川の氾濫防止工事も進み、側壁が石垣になり、流れる排水も幾分澄んで来たように思います。では水鳥たちの環境はどうでしょうか？

カモ達のエサになる水藻・水苔など、サギ達の小魚が減ってきているように感じます。

それでも、鳥たちは食料を求めてやってきています。先頃、白金公園橋付近で仲の良いカワセミのつがいを見つけました。近くで巣作りでもしているのでしょうか？

何かホットした気持ちでシャッターをきりました。その時の1コマを一年の思い出といたします。



副座長 鈴木 順二

歴史を記録する — いささか大袈裟な表現ですが、麻布未来写真館のメンバーとして活動しながら、今年度はこのように感じる事が幾度かありました。

春には、即位を祝う旗や幟を、街で写真におさめました。

5月、国賓の来訪に際して、VIPの移動や会食にともない、麻布でも厳しい警備を目にしました。

秋には、とても強い台風が相次いで襲来しました。特に19号に直撃された東京では、これまで体験したことがないような豪雨と強風が荒れ狂い、半日以上にわたり街から人影が消えました。麻布でも街路樹が倒れたそうです。

年が改まり2月には、羽田空港新飛行経路で実機をつかう飛行確認をするために、旅客機がこれまでにない低空でつぎつぎと麻布の空を横切ってゆきました。

そして今まさに新型コロナウイルスの感染が広がっています。区立幼稚園・小中学校が臨時休校し、都立中央図書館（有栖川記念公園内）も臨時休館。社会への影響は拡大する様相です。早く終息して、「歴史的」「記録的」ではない、ありふれた日常の情景がもどることを祈るばかりです。

(2020年3月17日)



2019年4月9日撮影

メンバー 荒澤 経子

2019年9月7日（土曜日）気温32度の中に霞町の町会の夏祭り御神輿が西麻布交差点をスタートしました。

時が街並みをどんなに变化させてもお祭り御神輿はいつも担ぎ手の心を和ませ、それを見る行き交う人に喜びを与えるものです。



メンバー 岡崎 純子

2月のある日、フジフィルムスクエアに「麻布未来写真館」のパネル展を見に出かけました。思いきって、来場者の方に声をかけてみました。その年配のご婦人は、現在、品川在住で、引越しされる前は長い間、有栖川宮記念公園の近所に住んでいたそうです。毎年、このパネル展をとっても楽しみにしているとのことでした。懐かしそうに、公園の昔の様子を話してくださいました。「梅の写真、ないわね。今頃梅が咲いていますよ。」と、おしゃっていました。

早速、翌日、公園まで行ってみました。「有栖川の梅」は、見事に咲いていました。撮影中、国際交流があったり、麻布ならではの楽しい梅見になったことを書き添えておきます。



メンバー 加藤 生磨

もともとインターネットで麻布や六本木の新旧の画像を比較するのが好きで、麻布未来写真館の活動を知りました。

たまたまメンバーの方とお話する機会があって、この活動に参加させていただくことになりました。

私の持ったこのまちの印象は近代的な建物がある一方で下町的な古いものが混在する不思議なまちだと思いました。

例えば、六本木にはヒルズやミッドタウンといった都市を代表する建物があり、同じ六本木でも少し静かな場所に入ると、未だに表札に麻布桜田町や麻布竜土町の旧住所がある家があって、とても混沌としていることにこのまちの魅力を感じました。

現在行われている虎ノ門・麻布台地区第一種市街地再開発事業でこのまちには、より一層大きな変化を遂げるでしょう。

その過程で生まれてくる景色や、消えていく景色をこれからも記録してパネル展で残してゆければと思いました。



メンバー 田岡 恵美

「麻布未来写真館のお元気な皆様にお会いできて大変光栄です。至らぬ点も多々あるかと存じますが、ご海容いただき感謝申し上げます。」

その過程で生まれてくる景色や、消えていく景色をこれからも記録してパネル展で残してゆければと思いました。



メンバー 椿由美子

ふりかえれば、今年度もあっという間の1年でした。

今後、再開発が予定されている西麻布三丁目北東地区一帯をメンバーと歩いたのは6月のこと。六本木通りやテレ朝通りから少し入ると静かな住宅街が広がり、空き家の庭先にあるビワの木が、数えきれないほどのオレンジ色の実をつけた姿に心奪われました。

その日の終着点、アークヒルズでは、六本木一丁目と赤坂一丁目の境界線が通っているというカラヤン広場で、地図を片手に境界線の位置を探し、参加者全員が境界線をまたぐ格好で一列に並び、記念撮影。なんとも愉快的思い出です。

11月のまち歩きでは、途中、港区総合防災訓練が開催されていた六本木中学校を訪れました。さまざまな防災訓練を体験できる充実したメニューと、幅広い年齢層の参加者であふれんばかりの盛況ぶりに目を見張りました。

大きな変化をあげるとすれば、我善坊谷一帯の再開発工事がいよいよ始まったことでしょうか。狭い路地に沿って木造住宅が軒を連ねる、そんな昭和の香りがする風景に親しんできた我善坊谷。その変わりゆく姿を記録にとどめようと、機会をつくっては現地に足を運びました。

前年度に続き、今年度も10月と1月の2回、地域サロン「ちょこっと立ち寄りカフェ」に参加させていただき、長年、麻布で暮らしてこられた方々と交流、貴重なお話をお聞かせいただく機会を持てたことは幸いでした。

あたたかく、心やさしいメンバーのみなさんとの交流もこの活動の大きな魅力の一つであり、私が5年、10年と続けてこられた原動力もそこにあるように感じています。

それに加え、新しいメンバーを迎えられたことは心づよい限りで、また、ちがった視点で「まち」を見る楽しさを教えていただきました。

パネル展にお運びくださった方々、そしてお世話になった関係者のみなさまに、この場を借りてお礼申し上げます。



空き家の庭先にひっそりと咲くアジサイ
(西麻布三丁目)



櫻田神社の天水桶
(西麻布三丁目)

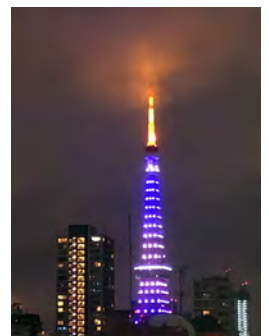


トライセブンロッポンギの植栽の一角にある池
(六本木七丁目)

メンバー 水野 禮子

麻布地区はお気に入りの場所・風景など、また歴史伝統が息づくまちです。昔の歴史を調べて現在と対比するとあまりにも変化があり、いろいろと勉強になりました。

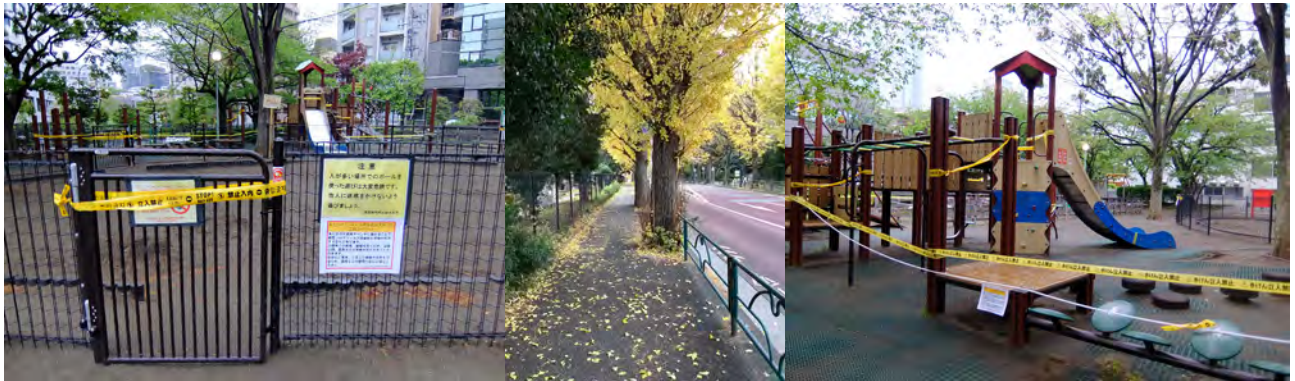
今・昔の麻布をもっとわかりたいと思う今日この頃です。



座長 近藤 敏康

令和元年度の麻布未来写真館では、パネル展の常設展示の充実に加え、区内各所での通年に渡る開催や、他事業と協力した、いきいきプラザでの交流活動など、活動の幅も広がりつつある中、終盤より新型コロナウイルス感染症の影響を受けてしまいました。その為、予定していた分科会も開催できず、またパネル展も一部開催できない中での終了となりました。

こんなときだからこそ、貴重な麻布の様子を未来に残すべく、事務局や、ご参加の皆様と協力して、活動を継続中です。平時に戻ったときには、ぜひパネル展において頂けると幸いです。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



メンバー 街いく探検隊

街いく探検隊は、将来の街の担い手となる子ども達と街を探検しながら清掃活動をするボランティア団体です。街を探検していると、麻布には歴史も面白いもの、珍しいものがたくさんありますが、特に子ども達が興味を持つのが昔の街の姿です。

そして、令和元年から麻布未来写真館に団体参加することで、更に街のことを知ることができました。再開間近の西麻布三丁目北東地区をメンバーの皆さんと歩いたことで、昔の麻布の空気を感じることができ、その後、街いく探検隊として子ども達と改めて探検できたことは、将来街の担い手たちにとって、とても大切な体験でしたし、将来の「記憶」に繋がると思います。

街の過去と今、そして将来をつなぐ、大人と子どもをつなぐ、そのきっかけが麻布未来写真館になるかもしれません。これからもこの活動に団体として、個人として参加していきたいと思っています。

講師 達川 清

「麻布未来写真館」のメンバー写真を掲載したいと思います。

メンバー全員ではありませんが、もう10年も参加している方々に感謝します。

まち歩きはコースを決めてぶらぶら歩き撮影です。

夢中になってみんなと遅れたり迷子になったり。

毎回まちの姿は変わり続けていて、興味は尽きません。

壊されてしまうと何があったか？パズルです。

写真で残っていると当時の生活環境が甦ります。

楽しいみんなのスナップを！

是非、あなたも参加してみませんか？



分科会活動記録（令和元年度）

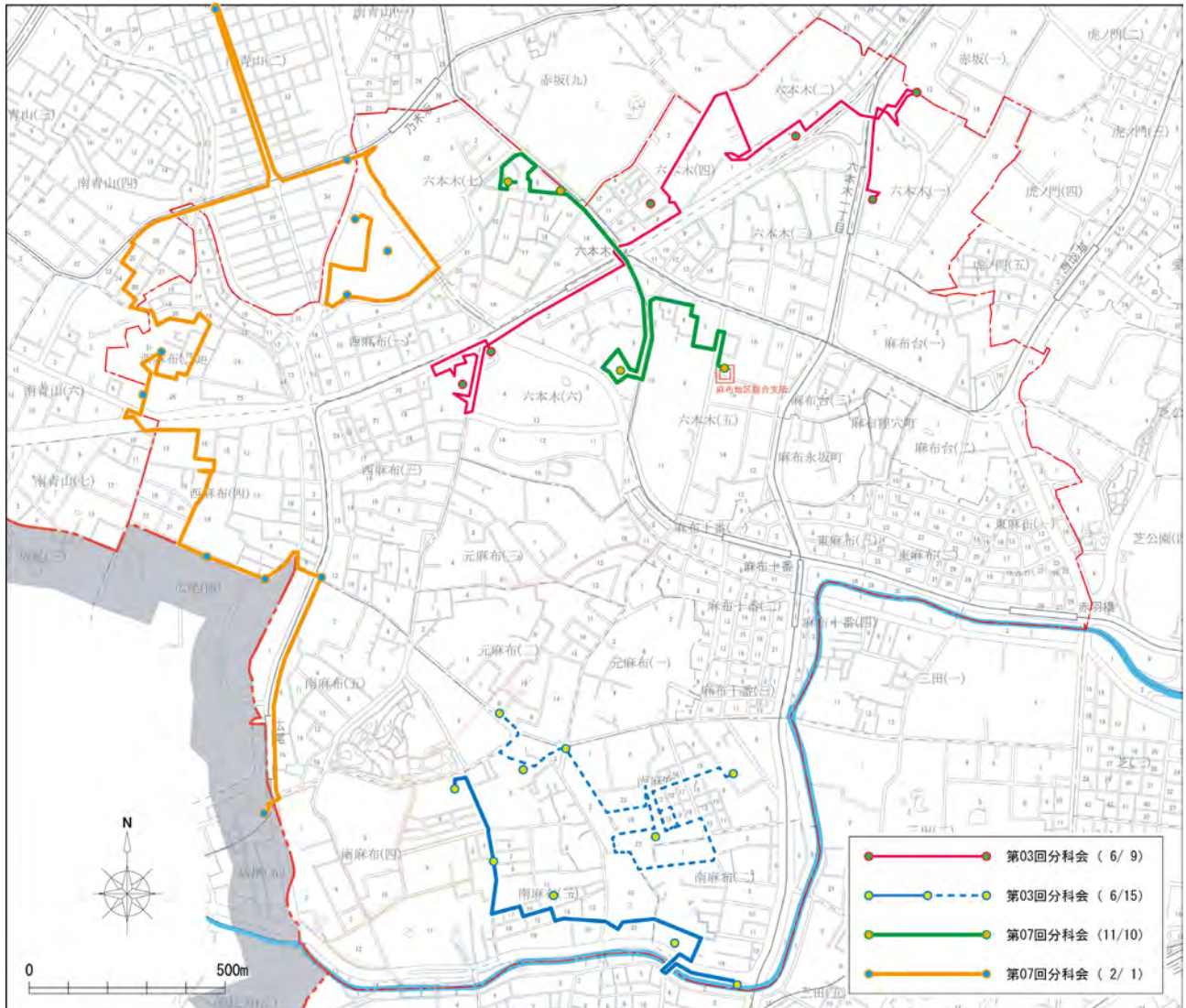
平成31年	4月18日（木）	プレ分科会：自己紹介、情報交換等
令和元年	5月15日（水）	第1回分科会：今年度の活動等
	6月6日（木）	第2回分科会：パネル展、まち歩きの検討等
	6月9日（日）	第3回分科会：まち歩き（撮影）A日程
	6月15日（土）	第3回分科会：まち歩き（撮影）B日程
	6月17日（月）	パネル展①：麻布地区総合支所1階ロビー（～7/12）
	7月11日（木）	第4回分科会：今年度の活動、まち歩きレビュー等
	9月19日（木）	第5回分科会：パネル展等イベント、今後の予定等
	9月25日（水）	パネル展②：飯倉いきいきプラザ（～10/10）
	10月2日（水）	「地域サロン～ちょこっと立ち寄りカフェ～」での連携イベント
	10月9日（水）	第6回分科会：パネル展等イベント、まち歩きの検討等
	11月10日（日）	第7回分科会：まち歩き（撮影）A日程
	11月20日（水）	第8回分科会：パネル展に向けた検討、まち歩きレビュー等
	11月22日（金）	パネル展③：麻布図書館（あざぶ達人ラボとの連携）（～11/30）
12月2日（月）	パネル展④：ありすいきいきプラザ（～12/15）	
12月12日（木）	第9回分科会：年度末パネル展に向けた検討と作業	
12月15日（日）	撮影会（分科会メンバーによるグループ活動）	
令和2年	1月15日（水）	パネル展⑤：南麻布いきいきプラザ（～1/22）
	1月22日（水）	「地域サロン～ちょこっと立ち寄りカフェ～」での連携イベント
	1月22日（水）	パネル展⑥：港区役所1階ロビー（～1/28）
	1月22日（水）	第10回分科会：年度末パネル展に向けた検討と作業
	1月31日（金）	パネル展⑦：フジフィルムスクエア ミニギャラリー（～2/13）
	2月1日（土）	第7回分科会：まち歩き（撮影）B日程
	2月17日（月）	パネル展⑧：麻布地区総合支所1階ロビー（～3/3）
2月18日（火）	第11回分科会：年度末パネル展に向けた検討と作業	

■その他、撮影画像の選定やパネル作成に向けたグループ活動を随時実施

※3月以降については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、予定していた分科会・グループ活動及びパネル展は中止。

まち歩き（撮影）ルート図

令和元年度の分科会活動では、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」を下図の撮影ルートにより計4回実施しました。また、分科会メンバーのグループ活動として、再開発が進む我善坊周辺の撮影会も実施しました。



港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちが真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和60年8月15日

港 区

区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会
令和元年度(2019年度) 活動報告

刊行物発行番号
31287-1435

令和2年(2020年)3月発行
発行 港区 麻布地区総合支所 協働推進課
〒106-8515 東京都港区六本木5丁目16番45号
電話 03-5114-8812

《技術・会場協力等》：達川清氏(フォトグラファー)
学校法人東洋英和女学院、フジフィルム スクエア(富士フィルム株式会社)、都立中央図書館、都立青山公園、
港区立麻布図書館、ありすいきいきプラザ、飯倉いきいきプラザ、南麻布いきいきプラザ (順不同)

©禁無断転載複製

麻布未来写真館

参加メンバー随時募集！



麻布未来写真館では、メンバーの募集をしています。皆さまもぜひ参加してみませんか？

会議など活動の見学が可能です。お気軽に問合せください。

古い写真・資料を探しています



明治～平成 10 年代頃の写真・資料等を募集しています。

麻布地区の建物や風景、お祭りなどの懐かしい写真がありましたら、下記問合せまでお寄せください。

地域 SNS アプリ「PIAZZA」



身近なイベントや日常の暮らしに関する情報交換などを通じて、地域密着型のコミュニケーションを促進するためのアプリ「PIAZZA」に、麻布未来写真館の活動を投稿しています。ぜひご覧ください。

「麻布未来写真館」の情報はこちら

港区ホームページ

<https://www.city.minato.tokyo.jp/>



問合せ

03-5114-8812

港区麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当